

# 赤潮調査事業※

抄録

小久保友養・竹内 照文

芳養 晴雄

## 目 的

浦神湾で海洋調査を定期的に実施し、赤潮多発期の海洋構造とプランクトン相を把握し、赤潮予察手法解明の基礎資料とする。

なお、詳細は「昭和61年度赤潮調査報告書（瀬戸内海ブロック）」及び「昭和61年度赤潮調査結果資料集」に報告されている。

## 方 法

浦神湾に8定点を設定し、6月から12月まで毎月1回一般調査を実施した。調査項目と分析方法は「赤潮予察調査指針」水産庁に従った。

また、湾奥部に3定点を設置し、6月18日から9月5日までの週1回の割合で水温、塩分とプランクトンの連続観測を行った。

## 結 果

### 1. 一般調査

- (1) 水温、塩分は表・底層水とも夏季が昨年にならば高目であった。透明度は冬季が昨年にならば高目であった。
- (2) 酸素飽和度は表・底層水とも76~106%の範囲で推移し、ほぼ昨年並みであった。
- (3) DINは表層水で0.17~2.37  $\mu\text{g} \cdot \text{at} / \ell$ 、底層水で0.70~3.73  $\mu\text{g} \cdot \text{at} / \ell$  範囲で推移し、昨年にならばやや低目であった。PO<sub>4</sub>-Pは表層水で0.03~0.16  $\mu\text{g} \cdot \text{at} / \ell$ 、底層水で0.1~0.35  $\mu\text{g} \cdot \text{at} / \ell$  の範囲で推移し、昨年にならばやや高目であった。
- (4) 珪藻類は $10^2 \sim 10^4 \text{ cells} / \text{ml}$ 、鞭毛藻類は $10^2 \sim 10^3 \text{ cells} / \text{ml}$  の範囲で推移し、ほぼ昨年並みであった。

### 2. 連続調査

水温、塩分とも6~7月にかけて降雨による低水温、低塩分が続いた。

プランクトンは*Skeletonema costatum*, *Chaetoceros spp.* が優占していた。*Gymnodinium nagasakiense* は、6月中旬に初めてみられ、7月中旬に最高5 cells / mlとなったが、8月以降ではみられなかった。

---

※ 赤潮調査事業費による。